

倶知安町

1341 細谷一貴

1.概要

1.1 概要

倶知安町は東経 140°、北緯 42°に位置し、長さは東西 25km、南北 22km、海拔 176m、面積は後志管内で 6 番目に大きい約 261k m²である。羊蹄山(1898 m)ニセコアンヌプリ(1308m)イワオヌプリ(1116m)ワイスホルン(1046m)などの雄大な山々囲まれ、温泉地が多く、積雪量も多いためスキーなどのウィンタースポーツが盛んである。四季を通してリゾート地として有名である。また後志庁の所在地でもあり、国や北海道の行政の出先機関が数多く置かれており後志地方の行政、経済の中心地である。

1.2 町名の由来

アイヌ語のクシャニ(管のようなところを流れ出るところの意)から名づけられた「クッチャン」に漢字を当てたもの。また、クッチャンは尻別川支流の倶登山川の旧名でもある。倶知安の漢字が正式に町名となったのは 1893 年(明治 26 年)のことである。

1.3 町章、町花、町木、イメージキャラクター

1.3.1 町章

雪の結晶と鳥を組み合わせて倶知安の頭文字Kをイメージして作られた。シンボルカラーは青で、『希望を持って未来へ羽ばたき発展・躍動する町』を象徴している。

1.3.2 町花「キバナシャクナゲ」

高山に多く自生し、羊蹄山、ニセコ系列の代表的な高山植物であることから選定された。

図 1 倶知安町の位置



出典：倶知安町 HP

図 2 倶知安町の位置 2



出典：倶知安町 HP

図 3 町章



出典：倶知安町 HP

1.3.3 町木「イタヤカエデ」

カエデ科の落葉樹で秋になると7枚にくびれた葉が黄葉する。倶知安町周辺に広く分布し、スキー普及の初期、スキー板の材料となったことから選定。公園や街路樹に広く利用されている。

図4 町花「キバナシャクナゲ」



出典：倶知安町 HP

図5 町木「イタヤカエデ」



出典：倶知安町 HP

1.3.4 イメージキャラクター「じゃが太くん」

特産品のじゃがいもがスキーをしているのを表したキャラクターで、三角のスキー帽は羊蹄山をイメージしている。最近ではじゃが太君の相棒的な存在として「じゃが子ちゃん」も登場しているこの2キャラクターはくっちゃんじゃが祭りをはじめとし、様々なイベントを盛り上げている。

図6 じゃが太くん



出典：倶知安町 HP

図7 じゃが子ちゃん



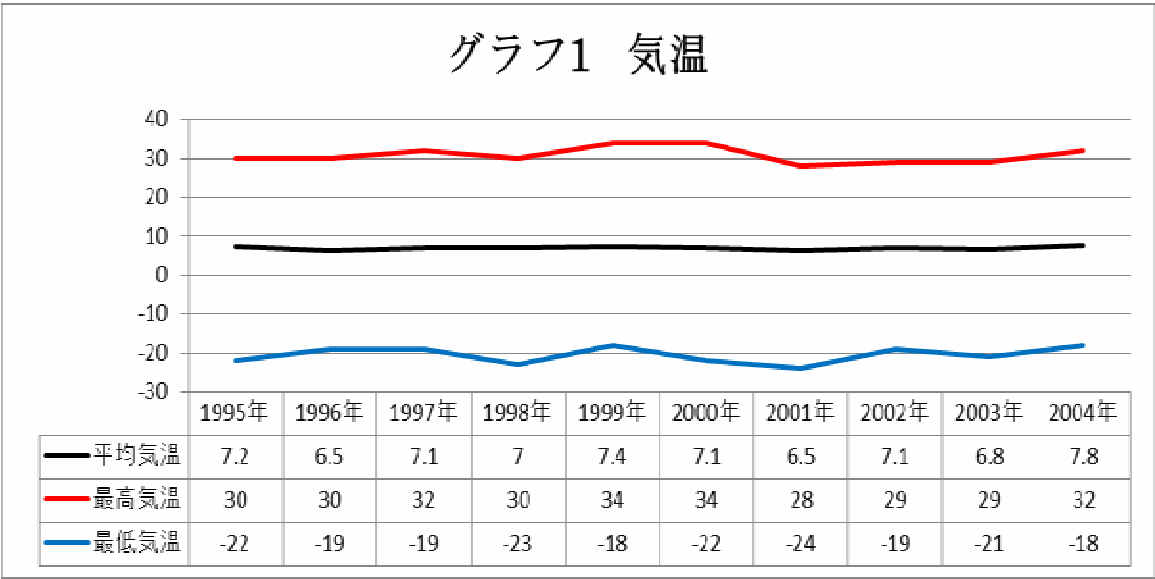
出典：倶知安町 HP

1.4 歴史

倶知安町の開基は1892年(明治25年)5月19日に第一次移住者である真鍋浜三郎ほか5名がクッチャン原野に入墾を開始したことから始まる。同年5月21日には第二次移住者の15名が入地し、この年47戸が倶知安で生活を始めた。翌年には虻田戸長役場を管轄として倶知安町が設置された(この時初めて倶知安という感じが使われた)。1899年(明治32年)岩内支庁(現後志庁)に編入された。1941年には開基50周年を迎え、これを記念して旭ヶ丘に

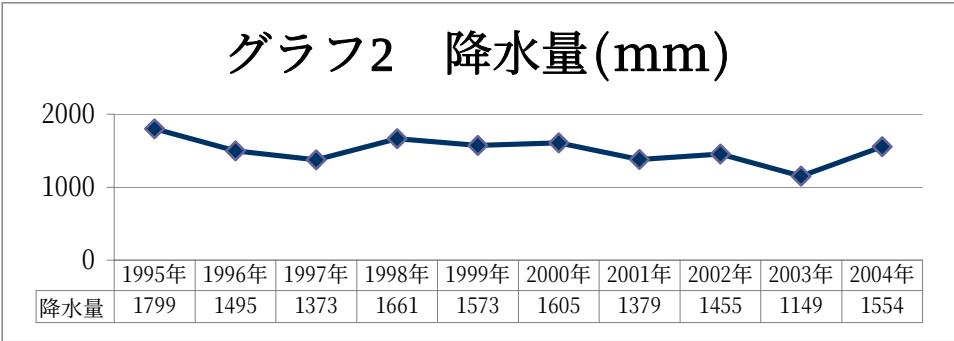
記念碑がたてられた。その後も開基 10 周年ごとに旭ヶ丘などに記念碑がたてられらたり、町花、町木などの改定がなされることもあった。また、1963 年(明治 38 年)から開かれている倶知安雪祭、産業観光祭(のちのじゃが祭)をはじめとする様々な祭が行われている。1985 年には全道スキー大会が、翌年には第 41 回国体冬季スキー大会が倶知安を会場として行われ、スキーの町倶知安が広く知れ渡ることとなった。1991 年には開基 100 周年を迎え、町花、町木、イメージキャラクターなどが制定され、記念式典が開かれるなど大きな賑わいを見せた。2010 年、支庁再編により後志庁が後志総合振興局と改定され、現在に至る。

2.気候



出典：倶知安町 HP より筆者作成

最低気温は－20°を超えるくらいまで冷え込み、寒さの厳しい地域である。その反面最高気温は 30 ° 前後という決して低くない数値となっており、夏は暑く、冬は寒いという盆地地形特有の特徴が強く出ていると考えられる。

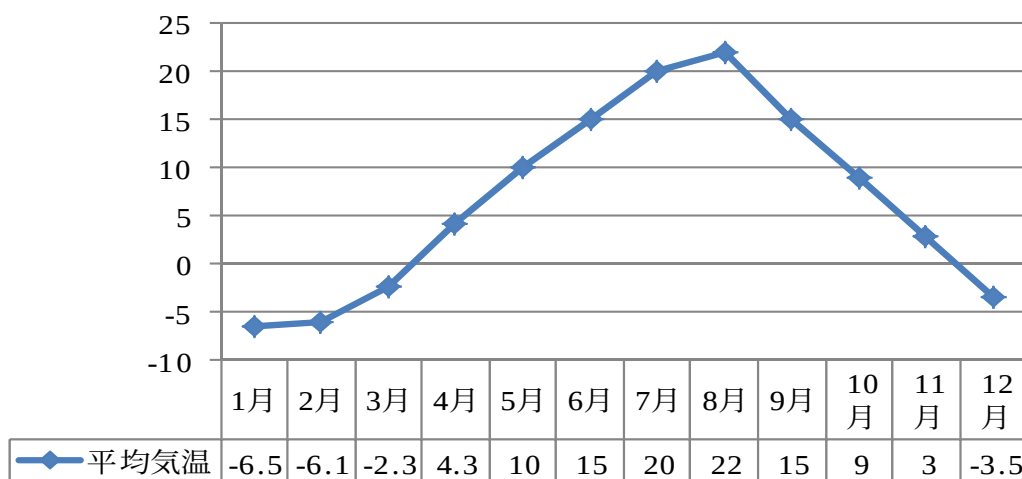


出典：倶知安町 HP より筆者作成

年間降水量は約 1500 mm前後となっている。全国的に見れば平均的な降水量であるが、

札幌、函館などの平均降水量が 1000 mm 前後であることを考えると、道内においては非常に降水量の多い地域であるということがわかる。

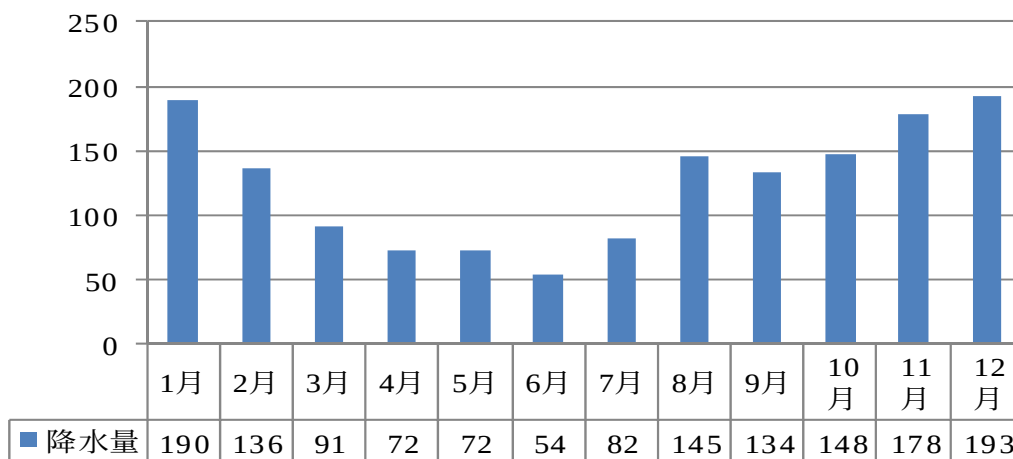
グラフ3 月別平均気温（2010年度）



出典：旅行の友 zentech より筆者作成

グラフ 1 において最高気温は高いという考察を行ったが、月別の平均気温を見てみると 7～8 月の平均気温は 20°程度という過ごしやすい気温となっている。このことから朝晩と昼間の気温差が激しいと考えられる。

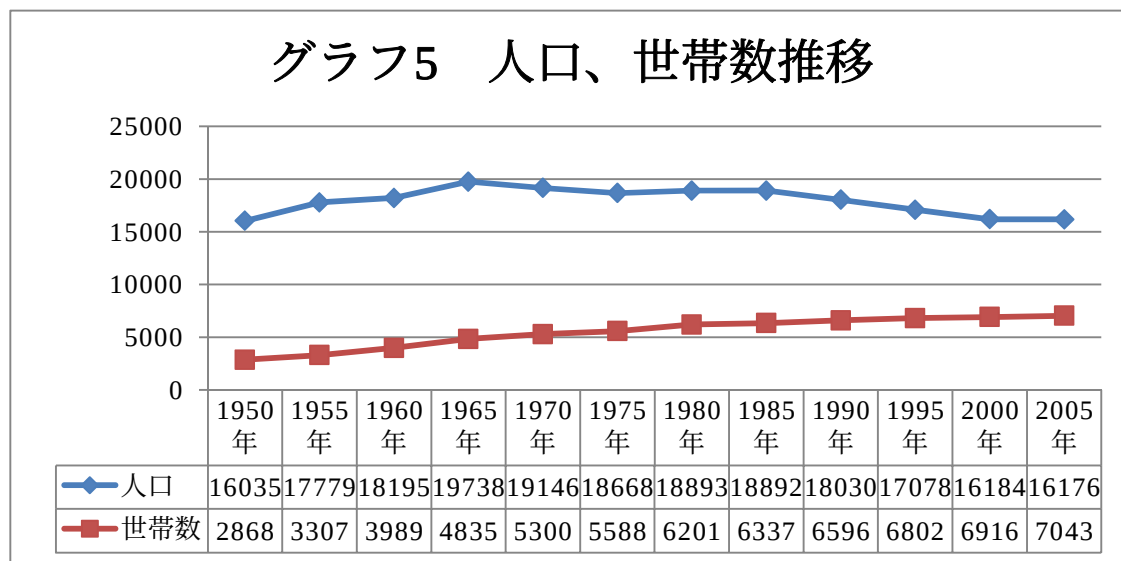
グラフ4 月別降水量(mm)(2010年度)



出典：旅行の友 zentech より筆者作成

倶知安だけでなく道内全般に言えることだが梅雨がないため 5～7 月の降水量は全国と比べ低い。豪雪地方として知られるだけあり冬の降水量は非常に高い数値となっている。

3.人口



出典：倶知安町 HP より筆者作成

人口は1950年から2005年にかけてほぼ横ばいの状態で推移しているが、世帯数は年々増加傾向にある。このことから人世帯当たりの人口数は減っているものと考察できる。

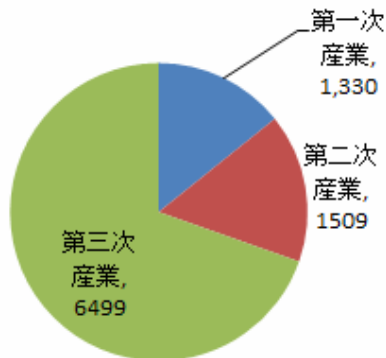
人口が17000人程度にもかかわらず、毎年の転出入者合計値は全体の15%近くにまで達しており、住民の入れ替わりが激しいのも特徴である。民間企業の支店、営業所、店舗などが集中している地域でもあるため周辺町村から数多くの人が倶知安に通勤、通学してきている。

4.産業

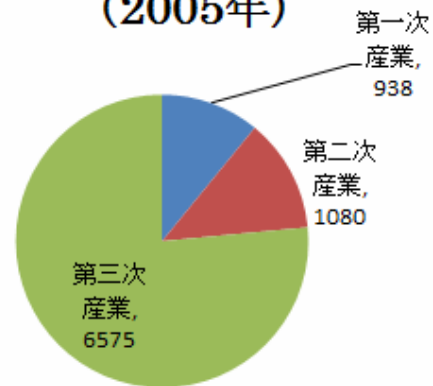
4.1 産業別人口

倶知安町は第一次産業、第二次産業の割合が低く、第三次産業の割合が非常に高い傾向がある。近年になってもこの傾向は変わらず、第三次産業は増加傾向にある。このことから倶知安が観光業などが盛んな町であるということがうかがえる。倶知安の第一次産業(主に農業)の人口は減少傾向にあるものの、羊蹄山から湧き出る豊かな水源、豊かな土壌によって育てられる農産物は有名である。しかし第一次産業人口の減少、高齢化によって耕地の維持が難しくなっているなどの問題が発生している。第二次産業としては工業の製材、コンクリート業者が多いが、第二次産業の人口も減少傾向にある。第二次産業減少に関しては卸売業、小売業の衰退が大きな要因となっていることが考えられる。近年倶知安には大型店が10年のうちに連続して3店舗以上立地されており、小規模小売店の販売力が大型店に吸収され店舗閉鎖を余儀なくされている状況が大きく関係していると思われる。

グラフ4 産業別人口
(1990年)



グラフ5 産業別人口
(2005年)



出典：倶知安町 HP より筆者作成

4.2 農業

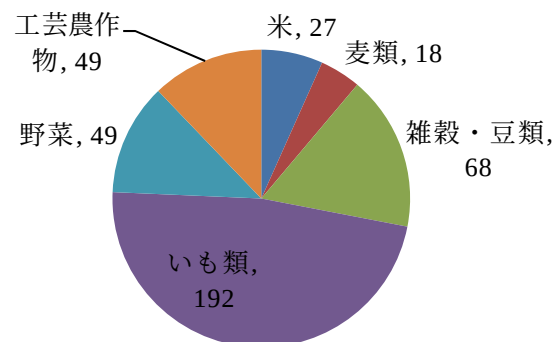
倶知安の主要農産物はキタアカリ、男爵イモ、とうやなどのイモ類である。そのため全体におけるイモ類の割合は5割近くにまで伸びている。また、米に関しても羊蹄山麓から湧き出た豊かな清水、水はけがよく余分な窒素の少ない土壌、安定している気候などの好条件から作ら

れる米は甘みが多くおいしいことで有名である。生産量の多い産地ではないが、うるち米、もち米などは同じ羊蹄山麓の蘭越町、ニセコ町、黒松町と並んでおいしいお米が生産されている。その他野菜もとうもろこしをはじめとし、なすび、ピーマン、ニンジン、ニンニク、スイカ、メロン、トマトなど多種多様な野菜が生産されている。

4.2.1 男爵イモ

花の色は淡い赤紫。町内の馬鈴薯作付面積の8割を占めている品種で、「クッチャンじゃが」を全国的

グラフ6 農業生産額(1000万円)



出典：倶知安町 HP より筆者作成

図8 メロン



出典：くっちゃんマルシェ HP

に有名にした代表品種。キタアカリなどに比べ火が通りにくい特徴を持つ。粉吹き薯に適しているが、長時間の煮込みは荷崩れが大きく適さない。風味と食味のバランスがよく、馬鈴薯らしい香りが強いので、多くの人に好まれている。

図9 ニンジン



出典：くっちゃんマルシェ HP

4.2.2 とうや

花の色は白。男爵イモのピンク色とは対照的な穏やかな印象の花をつける。馬鈴薯作付面積の1割程度だが、作付箇所が多岐にわたっているため鑑賞する機会が多い。男爵イモやキタアカリより香りは少ないが肉質は極めてなめらかであり、舌触りの良さが人気の品種である。

図10 とうや



出典：倶知安町 HP

4.2.3 キタアカリ

男爵イモより濃い赤紫の可憐な花をつける。町内馬鈴薯作付面積の1割を占める。外見的に表皮が男爵イモより荒いため、外見に重視を置く市場では人気がない場合が多い。しかし豊かな風味が人気の品種であり、食感も男爵イモ並みにいいため、人によっては男爵イモよりも人気がある。煮崩れしやすく、長期保存すると風味の劣化が激しい。サラダや粉吹き芋、スープなどに向いている。

図11 キタアカリ



出典：倶知安町 HP

4.3 後志地方の行政、経済の中心

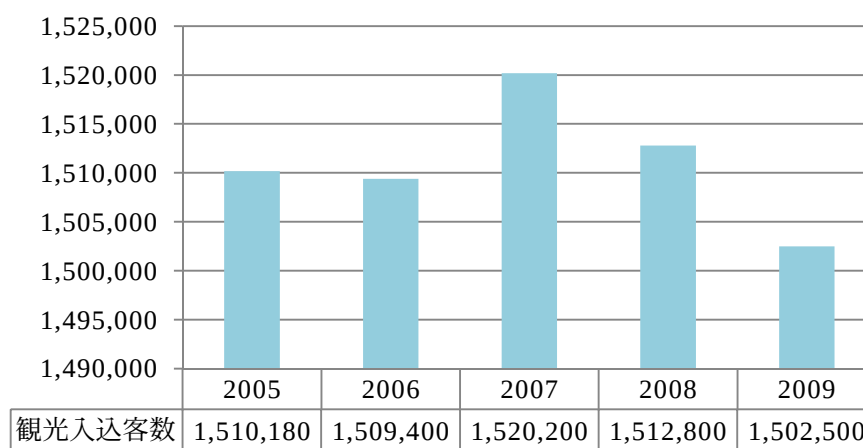
倶知安町の特徴の一つとして後志総合振興局(旧後志庁)の所在地であることが挙げられる。倶知安町には経済の面からみれば様々な店舗の支店が展開しており、産業の面では後志地方森林室、後志総合振興局農務課、産業振興部、行政の面では後志管内の各市町村の税務署、選挙管理委員会後志事務所などの北海道庁や各官公庁の出先機関が多く置かれている。周辺の町村から多くの人々が倶知安町に通勤しているため、昼間と夜の人口の差が激しいという特徴がある。以上のことなどから倶知安町は後志地方の行政、経済の中心地であるということがいえるだろう。

5. 観光

5.1 倶知安町の観光

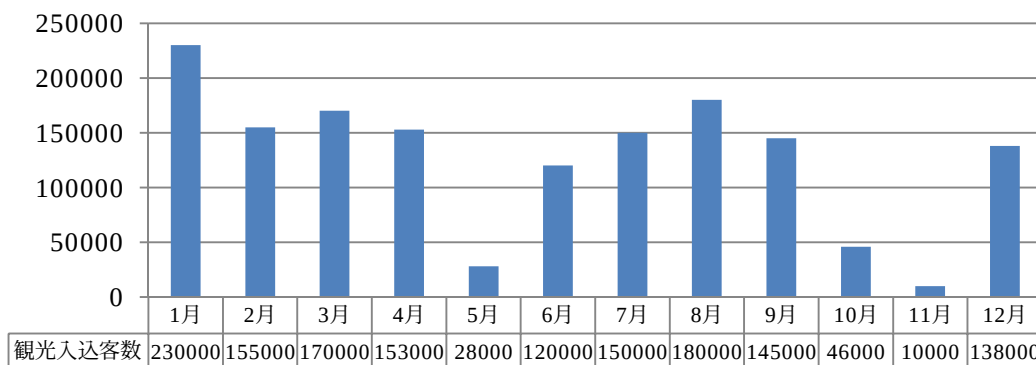
倶知安は広大な自然に囲まれ、温泉、スキー場などのレジャー施設、山麓などが数多く存在しているため観光業が盛んな町であり、毎年町民の10倍近い人数の観光客が訪れている。主な観光地としては羊蹄山、ニセコアンヌプリ、半月湖畔自然公園など、レジャー施設ではひらふスキー場、尻別川リバーパークなどが有名であり、温泉地も五色温泉、倶知安温泉、ひらふ温泉、ワイス高原温泉などの温泉地が点在している。冬にはスキーなどのウィンタースポーツを楽しむ観光客が多く訪れ、夏には倶知安じゃが祭などのイベントが数多く開催され、避暑地を兼ねて倶知安への旅行者が多い傾向にある。倶知安町もこの夏のシーズンと冬のシーズンの観光客誘致に力を入れている。

グラフ7 観光入込客数



出典：倶知安町 HP より筆者作成

グラフ8 観光入込客数



出典：倶知安町 HP より筆者作成

5.2 観光地

5.2.1 羊蹄山

別名「蝦夷富士」。標高 1898m の成層火山である。後方羊蹄山(しりべしやま)として日本百名山に選出されていて、山頂は倶知安、喜茂別、京極、真狩、ニセコ町の境界となっている。キツネ、エゾリスなどの哺乳類が多く生息し、130 種以上の野鳥も生息している。また名水の地としても知られており、周囲には無料で利用できる水汲み場がいくつか存在している。登山客やスキー客などで年間を通して観光客が多く訪れる。

5.2.2 旭ヶ丘公園

毎年 6 月に芝桜祭りが開かれ、多くの見物客でにぎわう。芝桜とは 4～5 月ごろに桜に似た形の淡桃、赤、薄紫、白色の花をつける多年草である。地面を覆い尽くすように群生し、寒暑や乾燥に強い特徴を持つ。一面に咲き誇る芝桜の風景は見る人を魅了している。

図 12 芝桜



出典：倶知安町 HP

5.2.3 倶知安温泉

倶知安町内にはひらふ温泉、倶知安温泉など各地に温泉地が点在している。倶知安温泉の泉質はナトリウム性の重炭酸食塩泉が多く、神経痛、筋肉痛、関節痛、冷え症などに特に効果があるとされている。倶知安では雪解けの春には新緑の大地、夏にかけては芝桜などの花々、秋にはもみじ、冬には雪景色に包まれる山々など四季を通して見事な景観を作り出しているため、一年を通して癒しを求めて多くの人が訪れている。

図 13 倶知安温泉



出典：倶知安温泉 HP

5.2.4 旭ヶ丘スキー場

倶知安町の旭ヶ丘にあるスキー場で緩斜面中心のコンパクトゲレンデである。スキー場内には傾斜度 30° クラスの急傾斜も存在しエキスパートも十分楽しむことができる。毎年 2 月にはリフトが無料開放されたり雪トピアフェスティバルなどのイベントも開催され、毎年多くのスキー客でにぎわっている。

参照 HP

倶知安町 HP : <http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/index.jsp>

倶知安観光協会 HP： <http://www.niseko.co.jp/>

wikipedia

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%80%B6%E7%9F%A5%E5%AE%89%E7%94%BA>

くっちゃんマルシェ HP： <http://park19.wakwak.com/~yukidaruma/>

後志総合振興局 HP： <http://www.shiribeshi.pref.hokkaido.lg.jp/index.htm>

倶知安温泉 HP： <http://www.n43.net/onsen/kuccyan/>